

## 地域の教室に求められていること

よねせ はるこ 米勢 治子（東海日本語ネットワーク・浜松学院大学）

### 1. なぜ“ボランティア”か？

#### 課題1

日本語支援についての声

「資格を持つ先生を雇って、しっかりとした教室を開くのが理想的だが、  
財政の問題や人材の確保が難しいなどの問題があり、理想がなかなか実現されない」

だから→ボランティアを安価な日本語教師として育成 … “ボランティアさん、がんばって！”  
でも →ボランティア養成講座で養成可能なのは、もともと資質のあるごく少数の人  
そして→ボランティアの序列化 …排除されるボランティア

#### 課題2

日本語ができるようになって、日本社会が変わらない限り、快適に暮らせない

日本語能力の向上 < 交流 → 多文化共生の地域づくり  
優秀な指導者 < 一人でも多くの日本人住民の参加

### 2. 地域日本語教育の概要

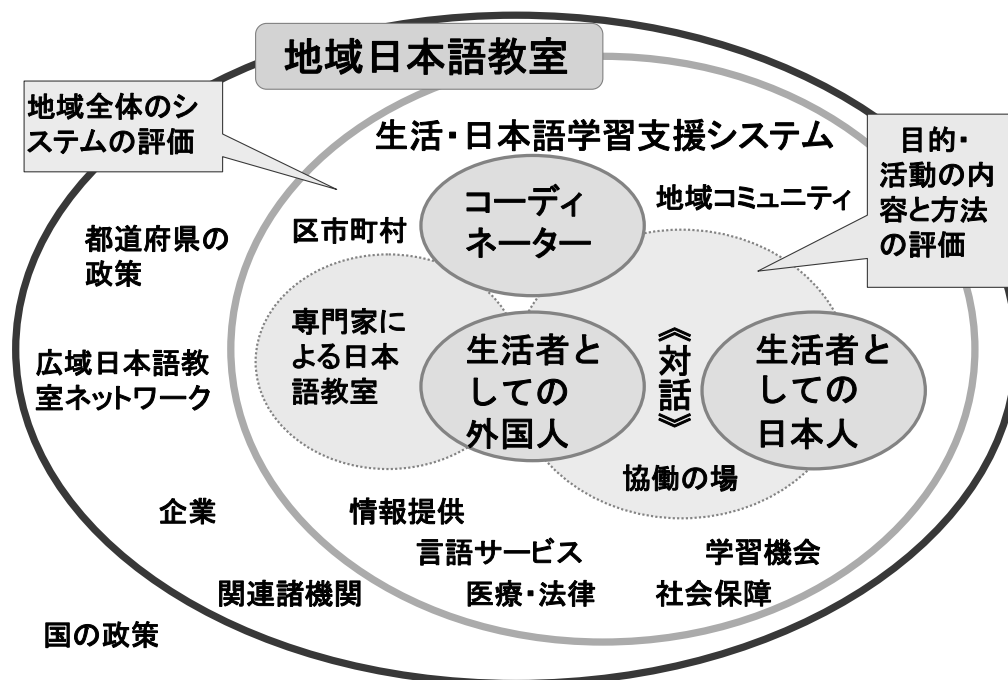


図1 地域日本語教育（日本語教育学会 2008,2009）

### 3. 地域日本語教室の活動方法～養成講座の内容から見てきたもの～

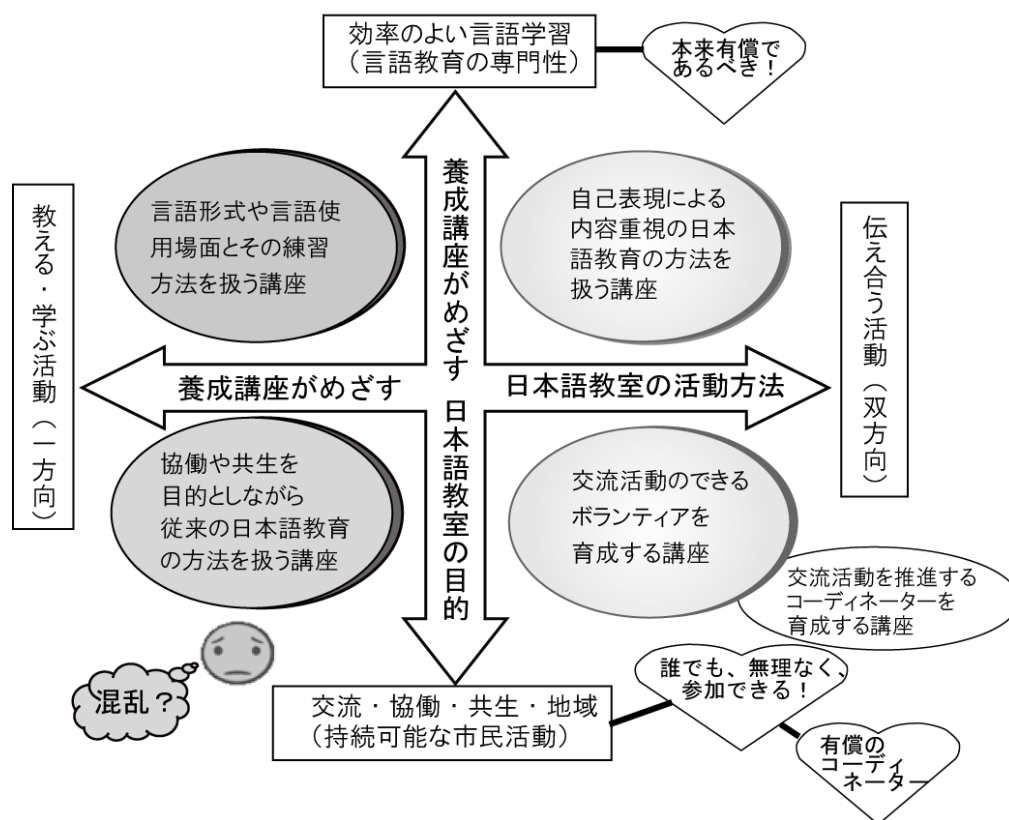


図2 講座内容の多様性（日本語教育学会 2009）

### 4. 「対話中心の活動」の勧め

☆「教える」ことをやめよう！

「教えられない」ボランティアの存在 / 「教える－教えられる」非対等な関係性

☆「対話する」ことが言語能力を伸ばす！

100回の練習より真のコミュニケーション / 個人にかかわることが心に残る

### 5. 学校型から地域型へ 『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖』（凡人社）より

☆ 教授型→対話型



☆ ペア→グループ





**3**  
ペアやグループごとに活動する教室

あれ、入口の人もボランティアなのかな？  
1人だけずっとあそこにいるけど...

あの人はこの教室で一番古いボランティアさん。みんなが楽しく活動できるように知り合っているんだよ。でもいつも、他のボランティアの世話をしているから自分は活動ができないとせもあるみたいだね。

思ったな、新しい外国人参加者が来たけれど、どうしよう。私もしたいけれど初めての人に話さないといけないし...

ボコンティアってここまでのしらないかな？

私は日本語能力試験目標で勉強しています。

あ、初心者です。住所と住所と電話番号が電話で伝えられるように、頑張って来ー。

この教室にはコーディネーターやアドバイザーはいません。活動は各自に任されています。たくましく成長するボランティアがいる一方、活動に行き詰まったとき助けてくれる人がなくて、挫折するボランティアも少なくありません。

いつも同じことばかり聞かれて、おもしろくないなあ。

もう話すことなくなっちゃった。どうしよう。入口の人に頼んでも、なんだかバツとしないのよね。

イッショ... いっしょせんめい、がんばります。どーぞ、よろしく、おねがいします。早く仕事したい、でも、にっちもこぎません。

私たちは役員のお母さんです。今日は「育児」の記事を書いています。

今日は、みんなで新おむつの発表に行きます！

PTAにも行きます。でも、本日はよくおかない。ここは、教員だから、大丈夫。分らないければ聞きます。

テーブルごとに活動は違いますが、月に1回回中で地域の防災訓練に参加したり、花見や年間製作など季節の行事をしたりします。

**4**  
独立型  
ペア/グループ活動

2人の間にいる人は誰？

ボコンティア登録や日本語教室の受付をしている国際交流協会のスタッフだよ。今日はこれから一緒に活動始めるペアを引合わせているんだね。

これが△△さんの申込書です。新しいことは2人で相談して決めてくださいね。

キャンセルするかな。

あ、はい。

えー、説明はそれだけ？他にできるかな...

この教室では、申し込みがあると登録ボランティアを紹介するという仕組みになっています。マッチングができれば、どんなことをするかはそれぞれのペアの自由です。なんだがお見合いみたい！？

所竹の話をしているのかと思ったけど、ちょっと違うかな...

うーん、機械的な感じがするね。

北海道に行ったことがありますか？

いいえ、でもぜひ行きたいです。

沖縄に行ったことがありますか？

いいえ、でもぜひ行きたいです。

じゃあ、今度は島に渡って。

この所竹行った旅行の話をしたいんだけど...

「京都行った、分かります。「こと」ありますか？」何？

山口さん、京都に行ったことありますか？

「こと」ありますか？は結構。

「こと」ありますか？

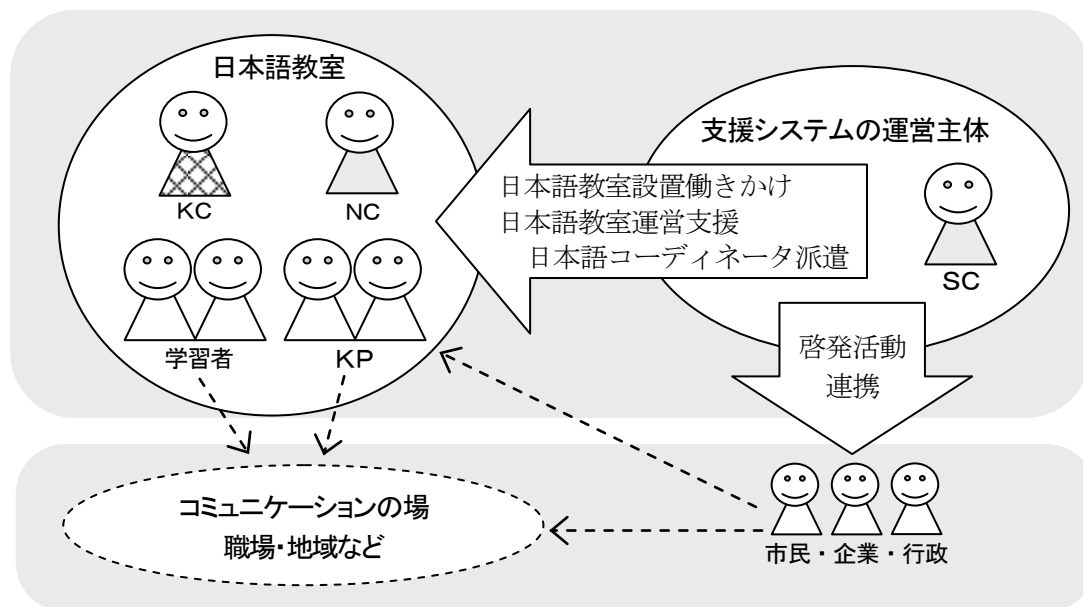
また分かってもらえなかった。ああ、どうしたらいいんだろ...

困っているみたいだね。誰かが相談できるようになっているといいんだけどね。

独立型の活動の良いところは、お互いの都合や希望の合った相手と活動できることです。一方で、教科書を使った「お勉強」になりがちです。また、教室といってもそれぞれのペアが独立しているので、横のつながりがほとんどなく、他の人と交流する機会が少なかったり、困ったときにすぐ相談できないこともあります。

## 6. 教室の“質”とは？～コーディネータの役割と必要性～

- ①会話パートナー（KP）：ボランティア
- ②日本語コーディネータ（NC）・・・学習活動促進：ファシリテータ／アドバイザー
- ③教室コーディネータ（KC）・・・教室管理運営：教室主催者
- ④システム・コーディネータ（SC）・・・支援システム運営



### ☆ 取り組み事例

- ・保見ヶ丘日本語教室 HOMIGO（保見ヶ丘国際交流センター）
- ・にほんごカフェ（浜松学院大学←文部科学省委託事業）
- ・とよた日本語学習支援システム（名古屋大学←豊田市委託事業）

### 【参考文献】

- 御館・仙田・中河・吉田・米勢（2010）『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖』凡人社  
名古屋大学 とよた日本語学習支援システム <http://www.toyota-j.com/>
- 日本語教育学会（2008）『外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）』 [http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/book/080424seikatsusha\\_hokoku.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/book/080424seikatsusha_hokoku.pdf)
- 日本語教育学会（2009）『外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」のための日本語教育事業）』 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/book/houkokusho090420.pdf>
- 浜松学院大学 多文化共生社会の構築に資する日本語教員養成プログラム <http://www.hgu.ac.jp/nihongo/>
- 米勢治子（2010）「地域日本語教育における人材育成」『日本語教育 144 号』日本語教育学会 pp. 61-72
- 米勢治子（2008）「地域日本語活動のあるべき姿を求めて—日本語ボランティア養成の実践から—」『社会言語学Ⅷ』「社会言語学」刊行会 pp. 77-89
- 米勢治子（2006）「「地域日本語教室の現状と相互学習の可能性—愛知県の活動をとおして見えてきたこと—」名古屋市立大学人間文化研究科『人間文化研究』No 6 pp. 105-119.